

名古屋市教育委員会臨時会

令和元年 7 月 22 日

午後 3 時 00 分

教育センター第 2・第 3 研修室

議 事

- 日程 1 令和 2 年度使用教科用図書の採択及び採択審議について
(小学校用のうち書写、算数、理科、図画工作、英語)

出席者

鈴木 誠 二 教育長
小栗 成 男 委 員
船津 静 代 委 員
梶 田 知 委 員
小嶋 雅 代 委 員
西淵 茂 男 委 員

教育次長始め、事務局員 20 名 ※傍聴者 34 名

(鈴木教育長)

お待たせいたしました。それではほぼ時間になったと思いますので、ただ今から教育委員会臨時会を開催いたします。

本日は多数の傍聴申し込みが見込まれましたため、傍聴人の定員を教育委員会傍聴規則に定める 10 人から 50 人に拡大して受け入れておりますのでご理解のほどお願いいたします。たくさんの傍聴人の方入っていただきましたが、この部屋はマイク、拡声器の施設設備がないということですので、発言されるときには少し大きめの声でご発言いただければと思います。よろしくお願いいたします。

それから傍聴の方も含めまして、ここにおられるみなさまにお願いでございますが、本日の議事であります令和 2 年度使用教科用図書の採択に関しましては、県の指導を受け、採択結果は 8 月 31 日まで非公開としております。また、採択などに関わる会議録、資料等につきましても、同様の取り扱いとなりますので、その旨ご理解の上、本日ここで知り得た内容につきましても、ご配慮いただきますよう、お願いいたします。

ではこれより、日程第 1「令和 2 年度使用教科用図書の採択審議について」を議題いたします。

本日は、小学校用のうち、書写、算数、理科、図画工作、英語の順で審議してまいりますのでよろしくお願いいたします。

では、まず「書写」について説明をお願いします。

(野々川指導主事)

それでは、「書写」の説明を始めます。

④のファイルの書写のページをご覧ください。続いて、②のファイルの書写のページをご覧ください。

書写の教科書は、東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書、日本文教出版の5者から発行されています。その全てについて、調査研究をいたしましたので、報告させていただきます。調査専門委員会報告書をご覧ください。

観点1「学習指導要領との関連」においては、5者ともに、書写学習を通して国語力の基礎を養うとともに、他教科や日常生活の中で生かせる力を身に付けることができるよう、内容が工夫されていますが、特筆すべきものとしては、教育出版は、2年生の12・13ページのように、メモの取り方、学習ノートの書き方などを随所に取り上げ、日常生活や他教科にも生かす工夫が見られます。光村図書では、2年生の32・33ページのように、巻末の「まとめ」で、手紙や連絡帳の書き方などを取り上げ、日常生活や他教科にも生かすための工夫が見られます。

観点2『「名古屋市教育振興基本計画」との関連』においては、特に教育出版と日本文教出版の2者に「なかまなビジョン」との関連が見られます。教育出版では、6年生の4ページのように、学習の進め方の中に友達との伝え合い活動を配置しています。日本文教出版は、3年生の2ページのように、3年生以上で「確かめる」活動の中の「まとめ書きをする」場面で、友達とよいところを共有する活動を位置づけています。また、教育出版は、6年生の36ページのように、東山動植物園のコアラをメインキャラクターに用いたり、6年生の39ページのように、手本に名古屋市の住所を用いたりするなど、児童に教科書の内容を身近に感じさせる工夫が見られます。

観点3「(1) 内容の選択」においては、5者とも意識させたい筆遣いや配列にあった文字が選択されています。特に、東京書籍は3年生の17ページのように、3年生以上の教科書のページの端に「書写のかぎ」の一覧を載せ、何を学習しているのか、何に注意すべきなのか、一目で分かるような工夫をしています。学校図書は、3年生の9ページのように、「2 考えて書こう」の学習で、「書き方のカギ」を使って文字を正確に美しく書く方法を理解した後、10ページの「3 生かして書こう」で、その方法を硬筆で生かせる文字が選択されており、実際に教科書に書き込みながら基礎・基本を確実に身に付けていくように工夫されています。

観点3「(2) 内容の程度」においては、5者とも学年の発達段階や生活経験に合った内容となっており、身に付けさせたい基礎・基本や養いたい態度を踏まえつつ、補充・発展的

な内容も工夫されています。特に、教育出版は、2年生の16ページのように、運筆のポイントに気付かせるための擬態語や指でなぞる活動を取り入れ、体験的に技能を身に付けることができるよう工夫されています。日本文教出版は、2年生の巻末のように、「チャレンジ」として、次の学年の学習内容を掲載し、発展的な学習に興味・関心がもてるように工夫されています。

観点4「表記・表現及び使用上の便宜等」においては、特に、学校図書では6年生の20ページから22ページのように、学習の流れが色別に表示され、書くポイントに関連したイラストや写真が効果的に配置され、学習の進め方が理解できるようになっています。教育出版は、6年生の5ページから8ページのように、穂先の通り道を示す朱墨や、姿勢、用具の持ち方や扱い方などの鮮明なカラー写真が随所に掲載されています。

観点5「印刷・造本」においては、5者とも書写の教科特性を考え、水や墨汚れに強い撥水加工を施すとともに、全ての子どもへの学びやすさに配慮したものとなっていますが、特に東京書籍は、5年生の表紙裏から5ページのように、教科書のサイズを横に広げ、図版を大きくしています。また、5年生の28・29ページのように、毛筆教材のページは、余白を含めて半紙の縦横比率で載せているので、文字の配置の参考になります。教育出版は、1年生の表紙のように、それぞれの学年で使用する筆記具や活動の様子が描かれ、裏表紙に、全学年とも鉛筆の持ち方が描かれ、書写学習への興味・関心を高める工夫がされています。

その他、書写の検討すべき事項として、事項2「学習準備段階の分かりやすさ」においては、東京書籍は、3年生の6ページのように、写真やイラストを示すことで、筆記具の持ち方や姿勢について確認し、正しく理解できるよう工夫されています。光村図書も、3年生の6ページのように、筆記具の正しい持ち方や姿勢などが写真とイラストで示され、ポイントを理解できるようにしています。日本文教出版も、3年生の3ページのように、筆記具の持ち方や姿勢などを写真で示し、様々な角度から正しい持ち方や姿勢を確認できるよう配慮されています。

事項4「筆順の理解のしやすさ」においては、5者とも、巻末に該当学年で学習する漢字や筆順を掲載しています。学校図書と教育出版は教科書下部に新出漢字とともに筆順を載せています。学校図書では、1年生は26ページのように色で筆順を示していますが、6年生の16ページのように、2年生以上は数字で筆順を示しています。教育出版も同様に、1年生は28ページのように色で筆順を示していますが、6年生の22ページのように、その他の学年は数字で筆順を示しています。

なお、書写の教科書に対しまして、「市民の声」として、ご意見をいただきましたことをお伝えさせていただきます。

以上、書写について、報告させていただきました。

(鈴木教育長)

説明が終わりましたので、「書写」の採択に関する審議に入ります。ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

(船津委員)

拝見しました。ありがとうございました。ちょっと拝見しながら自分でチェックを忘れたところがありまして、教科書の中にQRコードが入っているかと思うんですが、具体的な授業の中では、これを見るような機会というのがあるのか、ないのであれば、どんなものがQRコードから見られるのか。なくてもやられているのであればそれでもいいんですけど、QRコードの授業の中での位置付けを教えてくださいませんか。

(野々川指導主事)

書写の学習に関する資料として、写真であるとか、動画であるとかが見られるとは思いますが、ただ、教室の中にそういうものを見る環境がどの程度整備されているかは学校によって異なりますので、一概には答えられません。

(船津委員)

先生方としてはそれは使われた方がいいのか、例えば、筆の運びとか、姿勢とか、意外と書写は、動きがあると思うんですけど、それがあったほうがいいのかなどすればそれは教科書の使いやすさにつながるのか、でももう一方見ると、ここがごちゃごちゃしているので、見ながらは大変なのかなとかいろいろ思ったんですが、現場はどうだろうと思って。

(野々川指導主事)

QRコードの使いやすさ等については、資料としての指摘はあったんですが、教科書調査委員会からは報告があがってきていないものですから、すみません。ここではお答えできません。

(小栗委員)

私もですね、同じような疑問をもって、いろいろちょっと質問させていただいているときに、学校でタブレットを持っておられる方はそれでみんなで見ることができる。それで今のところちょっと見たんですけども、6年生かな。ここはなんか手の動きが入ってないようですね、動画みたいに。だからそうすると逆にQRコードが付いていると、授業中に見られない人は家に帰ってみるし、見られない人もいるかもしれないですし、学校であると学校で見られるということもあるので、QRコードの活用も人によって変わっているかなという気がしました。

(船津委員)

教科書に書けるようにとか、工夫がされていて、ここまで子どもが動きながらで、でもQRコードをここで読むのは大変かなとも思ったりするし、動きがあってとかそれを学んだらいいのかなとか思ったりもするので、そこは先生方はどうお使いになっているかというのを知りたいかなと。

(鈴木教育長)

まだ学校の方で環境が、名古屋市の場合ですけれども、全ての生徒が授業ごとにタブレットを使えるという環境が整っていないということもあります。教科書会社の方でも、QRコードを入れながら、読み取るときには必ず先生やおうちの人と一緒に使うようにしてくださいと注意書きがついていたりして、ちょっとまだ途上なのかなという感じがいたします。本来は教科書にあることですからその内容がどうかということをご確認いただいたうえでの採択としたいところですが、ちょっとまだ現状ではまだそれぞれの現場で生かし方を考えてもらうという段階なのかなという感じがいたします。

(西淵委員)

いろいろちょっと見比べさせていただいたんですけれども、特に教育出版のこの6年生とか、学習することが目次前のところの、裏ですかね。このところに端的にまとめられているというようなことが非常に工夫されているんだなというのがわかります。どうしても、書写学習というのは、常にあるということではなくて、限られたところで学習するものですから、途切れたり、少しまとまってやらないといけないということがどうしてもあるんですけど、学校現場の先生方も支持されているようにそういうところが評価されているのかなと思いました。それから、例えば上の運びのところにも、力強く入れるところが強調されていてわかるように学習のところが書かれたりしているので、先生方の考えられているところが、使いやすい形になっているんじゃないかなという風に感じたところです。

(小栗委員)

一点ちょっとお伺いしたいのですが、市民の声のなかで、書く時の姿勢について書いてあった中に、親指を机の下にして前かがみにならないような方法もあると書いてあったのですが、そういったご意見についてはどう思われているかと。

(鈴木教育長)

市民の声の中に。前かがみにならないようにする方法もあると。

(梶田委員)

どこかの教科書にそれが書かれてあったわけではない。

(鈴木教育長)

左手は親指を机の下にして、前かがみにならない方法もある。教科書の写真ではない方法もあると。左手を机の上に乗せるのではなくて、机の下にすると、腕を立てると背中が起こされると。その方がいいという考え方もあるよという意見ですが、それについてどう思われますかという質問です。いかがですか。

(野々川指導主事)

ご意見だと思うんですけども。写真の方法がいけないということではないと思うので。

(小栗委員)

察するにですね、基本姿勢が、これがほぼ基本であるのですが、そういう書き方もあった時に、例えば先生がたまたまそういう流派というか、そういう考え方の時には、それも許容範囲なのか、基本的にはやっぱり学校としてはこれを中心にしてやっていこうというように思っていたので、そのように思っておけばいいですねという確認です。

(野々川指導主事)

写真にあるように、基本的な姿勢という、教師が教えるというのは、写真を見ながら子どもたちにも具体的に確認をしていくので、こういう写真を元に基本的な姿勢については教えていくというスタンスでやっております。

(鈴木教育長)

紙を押さえてねと言われそうな感じもしますけどね。話を否定するものではないですけども、基本的な姿勢としてはこれを推奨するということなのかなと思います。

他いかがでしょうか。特にご意見もないようですが、提出された研究報告の資料によりますと、教育出版株式会社のものが高い評価を得ているようでございます。また、西淵委員からも、6年生でなにを学ぶかということについて簡潔にまとまっているなど優れているのではないかという話がありました。そのようなことを配慮いたしますと、教育出版株式会社の教科書を採択してはいかがかという風に考えますがいかがでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(鈴木教育長)

それでは、令和2年度使用小学校用教科用図書「書写」につきましては、教育出版株式会社のものを採択することといたします。

続きまして「算数」について説明をお願いします。

(平井指導主事)

算数科の教科書は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館、日本文教出版の6者から発行されています。各小学校における研究結果は、資料④を、調査専門委員会による調査結果は、資料②をご覧ください。

それでは、各者の特筆すべき点について報告いたします。資料②の算数のページをご覧ください。

観点1「学習指導要領との関連」は、6者とも、学習指導要領に示された算数科の目標を十分踏まえた編集となっています。東京書籍は、3年下79ページから83ページで、自分の考えと友達の考えを比較しながら、数学的な見方・考え方を価値づけたり、学び方の価値づけを行ったりするよう編集されています。教育出版は、5年205ページと206ページで、前の学年に獲得した概念や見方・考え方を振り返り、参照できるように編集されています。啓林館は、2年上4ページから9ページで、学習の進め方やノートの書き方が例示されています。

続いて、観点2「名古屋市教育振興基本計画との関連」は、6者とも、基礎的・基本的な知識・技能の習得と、自ら考え、判断し、表現するなど幅広い学力の育成が図られるよう工夫されています。大日本図書では、2年47ページで、単元の導入ページでは、身近な日常生活から算数の問題を取り上げるようになっています。啓林館では、6年238ページから248ページまで、日常生活への算数の活用を通して、キャリア教育にも対応したページが設定されています。

観点3(1)「内容の選択」では、6者とも、児童の身近な題材を取り上げ、既習の内容を使って解くように設定されています。学校図書は、3年上62ページから64ページで、単元の導入時に、身近な題材をイラストで紹介するなど、児童が主体的に学習が進められるよう工夫されています。日本文教出版は、5年下41ページで、新しい学習では、操作活動や既習の振り返りなど、児童が意欲的に学習に取り組めるよう配慮されています。観点3

(2)「内容の程度」では、6者とも個の習熟度に合わせて練習ができるように巻末に様々な問題が用意されています。観点3(3)「内容の構成」では、6者とも、個に応じて学習内容を習得できるように構成されています。東京書籍は、5年上97ページで、学習に必要な既習の内容である四捨五入を自力で振り返られるよう、154ページへ誘導するよう構成されています。啓林館は、5年88・89ページで、基礎的な学習を定着させながら、続けて発展的な問題を配置し、最後は、統合的・発展的に見直したりできるよう構成されています。

観点4「表記・表現及び使用上の便宜等」では、6者とも、写真や資料、イラストが随所に取り入れられ、学習のまとめや大切な事柄は、色を変えたり、枠で囲ったりして目立たせるような工夫がなされています。

観点5「印刷・造本等」では、6者とも、鮮明に印刷され、紙質にも配慮されたつくりとなっています。大日本図書は、5年125ページで、各単元のページ右肩に単元名を色分け

してインデックスのようなつくりになっています。啓林館は、4年上169ページから171ページで、巻末の切り取り教具には、場面に応じてうすい紙や丈夫な厚紙を使用したつくりとなっています。

続いて、資料②調査報告の裏面をご覧ください。

事項1「具体的な体験を伴う活動」では、6者とも、具体的な体験を伴う活動が適切に取り入れられた編集となっています。

事項2「具体物や図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考えたり、説明したりする活動の充実」では、各者とも充実が図られています。学校図書は、5年上108ページから109ページで、考えを言葉で説明したり、ノートに考えを表現したりする活動が具体的に示されています。日本文教出版は、5年上30ページから33ページで、折り込みページを用いて、閉じた状態ではめあてや見通しをもつ活動が、開いた後は自分の考えを説明したり友達の考えを聞いたりする活動が示されています。

事項3「算数の技能を確実に身に着ける内容の充実」では、6者とも、単元末に様々な問題を用意し、習熟が図られるよう工夫されています。大日本図書は、3年248ページで、前の学年で学習した内容をまとめたページを掲載し、その前のページには補充問題が掲載されたつくりとなっています。教育出版は3年上151ページで、既習内容を巻末にまとめ、系統性を意識して学ぶことができるようになっています。

事項4「必要な場面においてコンピュータの適切な活用」では、6者とも、デジタルコンテンツの充実やホームページアドレスの明記など、適切にコンピュータの活用が図られています。東京書籍では、5年下57ページで、問題解決の思考活動を視覚的に理解するために、デジタルコンテンツが用意されています。啓林館では、5年236ページから237ページで、プログラミング的思考を学習する際、コンピュータで行うか、巻末の付録を使用するか、発達段階や学校のICTの利用状況に応じた活用が選択できるよう工夫されています。

なお、算数科の教科書に対しまして、市民の声として、16通のご意見をいただきましたことをお伝えさせていただきます。以上です。

(鈴木教育長)

説明が終わりましたので、「算数」の採択に関する審議に入ります。ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

(梶田委員)

上下と分かれていたり、1冊であったり、大きさであったり、これの先生方の評価というのはどうなんでしょうか。それと、調査専門委員会の評価、1冊になっているかそれとも上下巻に分けるか。重さがやっぱり負担だという意見が多いので、1冊だと、私からすると負担が大きいのではないかなと思うんですけども。

(平井指導主事)

ご質問にありました、大きさ・重さの件でございますが、学年で分冊されておりますのが5者、学年で合本になっておりますのが1者でございます。分冊の5者も、2年生から4年生までを分冊する社が2者、そして1年生から5年生までを分冊する社が3者ございました。それぞれに、上下に分冊されたものが100gから200gの重さでございます。学年合冊のものは400gから500gのものとなっております。学年合冊のものが5、6年生にしてありますのがほとんどでございますので、これは発達段階に応じたものであると共に、合冊であることで、既習の内容がいつでも1年間振り返ることができるというメリットがございますので、体の負担はありますけれども、5、6年生を中心に合冊といったことが妥当ではないかと、このような意見でございます。

(小嶋委員)

啓林館なんですけれども、市民の声を拝見しますと詰め込み感があるというような意見が多いんですけれども、ただこちらの報告書の方では大変評価が高いのですが、この詰め込み感、重さについてはどのような意見が出ているのかなど。重いという物理的なことと、あるいは内容が多すぎるということなのか。例えば高学年になると5年6年でやはり著しく他に比べて重いとか。

(平井指導主事)

調査専門委員会から、詰め込み感といったところの指摘や意見は届いてございません。一般的に、その他のところを拝見しますと、啓林館の5年生6年生の教科書、共に489、481gでございます。他の学年合冊のところと大きい差はないという風に理解をしております。また啓林館のそれぞれのところに指摘をいただいた良さといったところにつきましては、先ほどの報告で申し上げた通りでございます。

(鈴木教育長)

5年生になると3者が1冊になるというので、その差はあまりないと。あと分冊の場合、これはどっちかだけ持ってくればいいんですか。

(平井指導主事)

分冊のものは、季節によって秋から切り替わりますので前半の時は上、後期は下といったところで9月か10月辺りで切り替わると把握しております。

(小嶋委員)

今、置き勉を認める方向というところかと思うんですが、算数だとかはやっぱりさすが

に毎日持って帰ってほしいので、なるべく負担が少ないものという考え方もこれから必要ではないかなと思いました。

(西淵委員)

今度の学習指導要領では、他の教科もそうですけど、教科ならではの見方・考え方、算数なら数学的な見方・考え方をきちんと育てることが大事で、調査専門委員会のところでは啓林館に数学的な思考力・判断力・表現力等を養うとそういう点が評価を高く付けてあったり、東京書籍もそういう面では数学的な見方というのがあるんですけど、やはり学校現場でやっていこうとするときに、かなりの問題数を、先ほど小嶋委員も指摘されたんですけど、あまり多いと、なんといいですか、問題の練習量が多くて、恐らくドリルとかそういったものも学校は買うんじゃないかと。そうしたときにかなり子ども達に負担がかからないように配慮してやっていく必要があるなという風に思うんですけども、先生方が調査研究をされたところでは啓林館が評価が高いと。その辺は調査専門委員会の方ではどういう風に考えられたのでしょうか。特にその見方・考え方を、数学、算数的な教科の見方考え方をきちんと育てられるというところの評価をもう少し教えていただきたいなと。具体的に。

(平井指導主事)

調査専門委員会の方では、数学的な見方・考え方を学ぶのに、いずれの各社も十分工夫改良がされておるといった意見はいただいております。例えばということですので、例えば大日本図書の子どものイラストの吹き出しの内容のように、数学的な見方・考え方に関わるようなものが取り上げられ、子どもたちが自らその学習を進展させていくといったところが工夫されているといった報告をいただいております。このように各社数学的な考え方を明らかにして、それを自ら進んで学ぶといった紙面の構成といった風に報告を受けているところでございます。

(鈴木教育長)

問題の数についての評価はありましたか。

(平井指導主事)

こちらはですね、発展的補充的な学習の扱いとして、こちらも各者個人差に対応が可能な内容といった報告を受けております。いずれも、巻末には補充の問題や確かめの問題、または「学びを生かそう」「考えるヒント」など随所にそういった内容が見受けられ、子どもたちの個人の進度、理解度に応じた学習が展開できるように工夫されている、こういう報告をいただいております。

(鈴木教育長)

ちょっと詰め込み感というようなことについての回答にはなりにくいのかな。いずれもたくさんの問題が用意されているところで、発展的な学習をしやすいということでは各社同様の配慮があるという説明で。

(平井指導主事)

ご質問にありました問題数の把握といったところは報告を受けておりませんので、こちらでは各社何問といったことではお答えすることが難しい状況でございます。

(鈴木教育長)

問題の数を数えたりとかそういうことがやられているかここで判断できないものですから、ちょっとこれはそれぞれ委員がご覧いただいて、詰め込み感のあるなし、その是非についても考えていただくということをお願いしないといけないかなという感じですね。他にも含めていかがでしょうか。

5年生の各社、ぱらぱらとめくっているんですけれども、数だけではなかなか、大きな差があるようには思えないかなという気がします。教科書に練習問題が多い方がいいか少ない方がいいかというような観点ではご意見ありますか。これと共に練習問題というのは他からドリルがあったりとか先生が出題したりとか、そういうこともあるんですかね。

(平井指導主事)

多いからどうだとか少ないからどうだといった報告はあがっていません。教科書はもちろん、そちらを素材に厚く取り上げたり、補完的に問題を絞って扱ったりということが一般的に教室で行われていると理解しております。

(船津委員)

結論を申し上げるわけではなくて意見なんですけれど、6年生はやっぱり重たくなって来たり大きいのは仕方がない、仕方がないという言い方は失礼ですけど、中学校に上がるにあたって、やっぱり1年間何を学んできているとか、先生方が少し前に戻られるとかいうことも必要かなと思うので、ボリュームは6年生、5年生とかも1冊の方が私はいいかかなと思うんだけど、問題数はそこまで、勉強してきて解きたいと思うかどうかの問題があると思うんですよね。もっと解きたいとか、間違えたから次に行きたいとか思えば、そのチャンスは多い方がいいと思うし、いっぱいあって、ええってなっちゃうと数学嫌いになっちゃうと思うので、教科書の流れの中で、どういう風におもしろいと思って勉強してきてじゃあ試してみようと思ったときには問題数がそこそこないと、解いて間違えて、それを学習して次へ行くということなので、問題数としてはある程度の問題数はあるべきなの

かなど。中学校に上がることを考えれば、名古屋市で数学算数好きが増えるには、解きたいなと思えるような授業をしていただくということが大事かなと思います。

(鈴木教育長)

問題の数については、量というより使い方かなど。とりわけ5年生6年生になると、練習の機会は多い方がいいという考え方もあるかなということですね。

他よろしいですか。だいたいご意見出していただいたという感じでしょうか。

(小栗委員)

逆に教えていただきたいのですが、今回教科書を選ぶにあたって、以前の教科書で直したほうがよかったところ。学校の総論かもしれませんが、各論かもしれませんが。教科書を使っていて、改善すべき点、こういうところを直したほうがよかったとか、もしくは小学校の試験の成績でいくと、必ずしも名古屋がよかったという記憶がちょっと。正確にはわかりませんが。そういったところを今回の教科書の中で、どういう風に改善がされていたりとか、もしくは今後学力を上げていこうというときに、こういったところに視点を、いろいろ観点とか書いていただいたんですが、こういったところの視点を特に重点的に見たらいいのか、そういうところで教えていただけることがあればお願いしたいと思います。

(加賀指導室長)

今回、新しい教科書を中心に調査専門委員会の方でその特性なりを研究はしてございます。ただ、前の教科書が、いろいろ現状使っていてなにか不都合な点というのは聞いていないというところでした。前の教科書の悪かったところといったところでは調査研究していないものですから、今それと対比をしてそのところが直っているのかどうかということまではどの教科もですね、その資料を持ち合わせていないものですから、今の教科書の、新しくなったものということで、そこに限って研究させていただいています。

(梶田委員)

今のちょっと関連なのですが、こういう専門委員会の報告書を見ると、全部肯定的な意見ばかりですね、否定的なものがなにもないので、非常に我々としてはわかりにくい。この研究されている段階で、本当に否定的な部分は何もないんですかね。今は算数ですけど、算数以外でもいいですけど。そうなのかなあと。教科書を評価するときに。

(加賀指導室長)

否定的なところでは見ていない。その特性というところで見えています。ただ、表面のところではいきますと、特に特筆すべき点がどれだけあるのかということも参考にしてい

ただけるといいかなと思いますけれども、悪い点といったところでは指摘はしていないというところでは。

(鈴木教育長)

いずれも文部科学省が認めているというところもありますから、視点としてはよりよいものをというところからの資料ということだと思われま。

あとよろしいですかね。ご意見さまざまいただきました。問題の数とかですね、重さの問題等もありましたけれども、どちらかというところがだめ、ここがいいというところはあまりなかったかなという気がします。そうしますとまた資料に戻りますけれども、各校から出ている調査研究報告、それから、専門委員会から出されている報告書を拝見しますと、いずれも啓林館のものがですね、点数ではかなり他とは大きな開きが見られます。また、特筆すべき点という意味でもですね、かなりの差をつけて、多くの特筆すべきことが啓林館に挙げられているということからしますと、啓林館の教科書を採択してはいいかがかと思えますがいかがでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(鈴木教育長)

それではご異議なしと認めまして、令和2年度使用小学校用教科用図書の「算数」につきましては、啓林館を採択したいと思います。

それでは次に、「理科」についての説明をお願いします。

(柴田指導主事)

理科の教科書は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、信州教育出版、啓林館の6者から発行されています。全小学校での研究結果については、資料④、黄色いファイルの理科のページを、調査専門委員会による調査結果については、資料②、黄色ファイルの理科のページをご覧ください。それでは、各者の特筆すべき点について報告させていただきます。資料②の理科のページをご覧ください。

観点1「学習指導要領との関連」においては、6者とも問題解決の過程に沿って活動が繰り返り広げられるよう配慮されています。大日本図書は、3年3ページのように、児童が主体的に見通しをもって問題解決学習に取り組めるよう、各学年の巻頭に「見つけよう」「調べてみよう」「伝えよう」の3つの過程ごとの学び方が示されると共に、話し合いといった協働的な学びの仕方が丁寧に説明されています。教育出版は、3年14、15ページのようにイラストや見出しの工夫により、子どもたちが協働して問題解決に取り組めるように工夫されています。啓林館は、3年4、5ページのように、1時間の学習の流れだけでなく、単元

を通した「見つける」「調べる」「ふり返る」の3つの過程を設定し、主体的に問題解決に取り組むことができる構成になっています。

観点2「名古屋市教育振興基本計画との関連」においては、6者とも学ぶ意欲を育みながら、基礎・基本が定着するよう配慮されています。東京書籍は、5年79ページのように、「問題をつかもう」から「まとめ」まで結んだ「学びのライン」、左側のところですが、「学びのライン」が示され、つながりを意識させることで基礎基本を習得できるようにしています。大日本図書では、6年28ページに「5年で学んだこと」とあるように、これまでの学習内容からさらに疑問をもてるよう工夫されています。学校図書では、4年16、17ページのように、2枚の写真を比較して違いに気づかせるなどして、学習意欲を高めるよう工夫しています。

観点3(1)「内容の選択」においては、日常生活との関連や季節の移り変わりを考慮して、無理なく学習ができるように配慮されています。大日本図書は、5年102ページの「自然を考えた川づくり」の右側に「ESD」「環境」「防災」とあるように、現代的な諸課題に関しても学習内容と関連させ、分かりやすくマークで示されています。教育出版では、3年48ページにプール開きの前にトンボの幼虫を捕まえる写真を示すなど、教材の入手しやすさや興味付けなどができるようになっていきます。啓林館では、3年73ページのように、昆虫と身近な道具や乗り物との共通点を示すなど、自然の巧みさについての内容が興味深く示されています。

観点3(2)「内容の程度」においては、6者とも各学年の問題解決の力を育成することに重点をおいた構成となっています。大日本図書は、4年44ページのように、ダイナミックな活動の中から疑問を持たせて問題設定や予想へとつながるようにするなど、発達段階を考慮した工夫がされています。学校図書は、5年145ページの実験のはじめに「準備」とあるように、どのような器具が必要かを示すと共に、手順も示され、解決方法を発想する力を育成できる工夫もされています。

観点3(3)「内容の構成」においては、6者とも学習内容のつながりを考慮し、補充的な学習や発展的な学習が、各学校で扱いやすくなるように配慮されています。大日本図書は、3年178ページから181ページにあるように、これまでに学んだことを生かす発展的な学びの場を充実させています。特に180ページに「改良しよう」とあるところが工夫されています。教育出版は4年66ページの左下のあるように、単元はじめに「学習のつながり」を示し、学習内容の系統的なつながりを意識できるよう工夫されています。啓林館は、4年43ページのように「つなげよう」のページを設け、日常生活と関連させることで理科を学ぶ有用性が実感できるよう工夫されています。

続きまして、理科の検討すべき事項についてお願いいたします。資料②、裏面をご覧ください。

事項1『言語活動の充実』では、6者とも「見通しをもつ場面」での会話が示されるなど、考えを伝え合う活動が深まるよう工夫されています。東京書籍では、5年39ページに「学

ぶ前の私」があり、47 ページに「学んだ後の私」があります。単元のはじめと終わりに、同じ問いに対して考えさせるようにしています。信州教育出版社では、5 年 128 ページのように、結果から考察する場面で科学的な言葉や概念を用いて考えたり説明したりする活動を設定しています。

事項 2『コンピュータや情報通信ネットワークの活用』では、6 者とも QR コードを明記するなど、デジタルコンテンツを利用しやすくなるよう工夫されています。

事項 3『具体的な体験を伴う学習活動』では、6 者とも児童の興味関心が高まるような観察実験が取り入れられています。大日本図書は、4 年 87 ページのように手作りの実験器具を取り入れるなど、児童にとって興味関心が高まるような工夫がされています。教育出版は、3 年 138 ページの児童の吹き出しにあるように、実験が、児童の発想を大切にしたものになるよう工夫されています。啓林館では、6 年 58、59 ページのように、写真を多く掲載して実験の見通しが持てるよう工夫されています。

事項 4『日常生活や自然災害との関連』では、6 者とも学習内容が日常生活でどう生かされているかを写真や具体的な器具などを紹介して関連付けています。また、自然災害についても、写真や資料等を紹介し、防災に関する意識が高まるよう構成されています。学校図書は、6 年 142 ページから 145 ページのように、災害の怖さを効果的な写真を用いて示しています。

なお、理科の教科用図書につきましては、市民の声としてご意見を 5 通いただいております。机上にあります「市民の声」の青ファイルに綴じてありますので、参考にさせていただければと思います。

(鈴木教育長)

説明が終わりましたので、「理科」の採択に関する審議に入ります。ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

(船津委員)

これは先生方というよりは、せっかく教科書を拝見しているので、理科、拝見したなかで、子どもたちは、自分たちがそこでやっているかのように思えるように、どの教科書も、理科だけじゃなくて、キャラクターというか、ここに登場人物の子どもたちが出てきているんですけども、先ほどの算数は全部お名前が入っているのに、理科は全然入っていないのは、国のそういう、あったりするのか、でもご本人が質問されたりして、これはどうなっているんだろうとか出てくるのに、これは名前がないのに、算数は全部名前が入っているという違いは何なのかを、こういうこと気にしてはいけないのかもしれないですが、名前を入れる入れないって大きく違うと思うので、何の意図があるかということは、教育委員会の中で話になったりしましたでしょうか。

(鈴木教育長)

出てくる登場人物に関するもの。

(船津委員)

この後出てくる英語なんかでも、一緒に学ぶ仲間とかいって、お名前出てくるんですけど。さん入りだったりさん入りじゃないのもあって、でもキャラクター見ると、この子わからないけどがんばっているとか、よくわかっている子とか、たぶんその程度に合わせて、親近感をもって学ぶように作られているから、最近教科書の中では、子どもが出てくるんだと思うんですが、それを考えたときに理科はけっこうなんでだろうとかいう風な感じなんだけど名前が入ってなくて。すごい細かいことかもしれないですけど。気になりました。

(梶田委員)

理科の教育出版は名前が入ってる。

(船津委員)

あとは、学校図書さんでも、6年生のいちばん前のところは出てくる方にキュリー先生ってあるんですけど、5年生の方は、多分この方野口さんだと思うんですけど、お名前がなかったりとか。こういうばらばらな、誰々って考えさせるためにこうなっているのか、なんですかっていうのが。

(柴田指導主事)

特に意識はされていなくて、調査研究報告もあがってはきていないんですけども、特にその点配慮して、授業の中でそれを使いながらということはなく、吹き出しの中身のところを考えさせているという形の取扱い方はしています。

(船津委員)

じゃあ逆に、算数なんか名前入ってなくてもいいぐらいの感じですかね。

はじめに入っているのはわかるんですけど、その方がどなたかというのが算数だったりすると最後まで名前が入っているのに。あまり関係ないんですかね。せつかく教科書会社がこのように入れられているというのは。

(鈴木教育長)

算数ですけど、同じ問題に対して解き方が3通りあるみたいなときに名前があると議論しやすいかなってというのは感じますね。「私はしほさんと同じで」とか。理科でも同じようなことが言えるのかもしれないですけど。

(小嶋委員)

コメントなんですけど、あ、いいなと思ったことがあったので。大日本図書なんですけれども、例えば45ページとか。6年生です。6年生の「たのしい理科」の45ページに、外国にオリジナルのあるお子さんが登場している。同じ子かな。他にもあったと思うんですけども、今名古屋も大変外国人児童が増えているので、こういう形でいろいろな国のお子さんがいるということを感じられるのがとてもいいなと。今までの教科書ではなかった気がするんですが。大日本図書のこの点とてもいいなと思いました。ちなみにですね、お名前なんですけど、同じ大日本図書の理科の6年生、59ページにジェーンさんとしょうさんが登場しています。

(船津委員)

さっきの算数にも、出てくるキャラクターにいっこだけ外国人の男の子が。

(鈴木教育長)

他いかがでしょうか。意見出尽くしましたでしょうか。

その他には特にご発言もないようです。改めまして、各学校における研究報告書、それから専門委員会の研究報告書を拝見しますと、各学校の研究報告書では、大日本図書のものが点数では多く全ての観点で他社よりも高い点数が付いています。専門委員会の研究報告書では、特筆すべき点が、教育出版4、啓林館5に対して大日本図書のものが6ということで、5と6の差ではありますけれども、大日本図書が特筆すべき点が多いという結果が出ております。

理科の教科書につきまして、大日本図書を採択したいと思いますが、いかがでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(鈴木教育長)

ありがとうございます。それでは、令和2年度使用小学校用教科用図書「理科」につきましては、大日本図書の教科書を採択させていただきます。

続いて「図画工作」について説明をお願いします。

(松本指導主事)

図画工作科の教科書は、開隆堂、日本文教出版の2者から発行されています。

全小学校での研究結果について、報告いたします。資料④のファイルの図画工作のページをご覧ください。

次に調査専門委員会による調査結果について、資料②の図画工作のページをご覧ください。その中の特筆すべきものについて報告させていただきます。

観点1「学習指導要領との関連」におきましては、両者とも新学習指導要領で示された3つの資質・能力「知識・理解」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」について分かりやすく示され、各題材の中で確認できるよう工夫されています。例えば、開隆堂は、「3・4年上」の14・15ページをご覧ください。左側のページに学習のめあてを示し、右側のページには振り返りを示して、活動の前後で、児童が学びを確認できるよう編集されています。日本文教出版は、同じく「3・4年上」の14・15ページの左側には学習のめあてを示し、右側の下には、活動の後で考えることが示され、感覚を働かせながら、造形活動の基礎・基本を習得できるように編集されています。

観点2「名古屋市教育振興基本計画との関連」については、日本文教出版の「5・6年上」25ページに、徳川美術館の収蔵品を取り上げ、名古屋の歴史・文化の魅力を感じられるようになっています。

観点3の(2)「内容の程度」につきましましては、両者とも具体的な活動を考慮し、題材を工夫しています。例えば開隆堂は、「3・4年上」の34ページ「トントンくぎ打ち、コンコンビー玉」、そして「3・4年下」の44ページ「トントンつないで」において、木工技能が定着するよう、くぎ打ちを取り上げています。また、日本文教出版では「1・2年下」10ページ「ひかりのプレゼント」、「3・4年下」38ページ「光とかげから生まれる形」、「5・6年上」44ページ「光と場所のハーモニー」のように、身近な自然から捉えた形や色に注目し、豊かにイメージが膨らむよう、配慮されています。

観点4「使用上の便宜」につきましましては、特筆すべきものとして、開隆堂の「5・6年下」19ページのように、QRコードによって、関連動画や作品例を見ることができ、幅広い鑑賞の仕方が提案されています。

続きまして、図画工作科で重点となっている事項について報告いたします。裏面の調査専門委員会報告書をご覧ください。

事項1の「造形遊びの活動について、身の回りの形や色などと豊かにかかわることができる内容になっているか」につきましましては、日本文教出版は、「1・2年上」14ページの「すなやつちとなかよし」や、「5・6年上」10ページの「あんなところがこんなところに見えてきた」など、身の回りから美術作品まで、幅広い造形遊びの題材を取り上げており、児童が体全体を働かせ、形や色に豊かに関わる事が出来る内容になっており、造形的な見方感じ方が深まるようになっています。

事項2の「絵や立体、工作に表す活動について、創造的につくったり表したりできる内容になっているか」については、開隆堂は、「5・6年上」40ページの「Myキャラが動き出す」のように、デジタルカメラなど、ICT機器を使った題材を紹介し、創造的に表現する工夫がされています。

事項3の「自分の見方や感じ方を深める鑑賞活動ができる内容になっているか」につい

では、特筆すべきものとして、日本文教出版の各学年に設けられた「教科書美術館」では、例えば「1・2年下」の2ページから4ページにありますように、造形的な視点で形や色を捉えられる工夫があり、自分なりの見方や感じ方が深められるよう工夫がされています。

事項4の「材料、用具、活動場所などについて安全かつ活動しやすいものとなるような解説がされているか」については、両者とも巻末に特設ページを設けて、材料や用具の取り扱いなどについて、写真やイラストで分かりやすく解説されています。

なお、図画工作科の教科書に対しましては、「市民の声」として、特にご意見はございませんでした。

以上、図画工作科について、報告させていただきました。

(鈴木教育長)

説明が終わりましたので、「図画工作」の採択に関する審議に入ります。ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

(鈴木教育長)

私からひとついいですか。教科書の中で、先ほどのご指摘の中に、部屋を暗転させて光の色とかを見る場面も出てくるんですけど、図画工作を勉強する部屋というのは、いずれも暗転できるような風になっているんですかね。各教室にはそのようになっていないように見受けられますけれども。

(松本指導主事)

部屋に暗幕カーテンがある部屋でやれるところもありますし、例えば、暗くなる場所を学校の中で見つけて、そういった場所を活動場所にするということもあります。例えば、体育館の緞帳を下げた裏の、舞台の裏側に行って、真っ暗な空間を作るだとか、そういった工夫もそれぞれの学校の先生方がしているという現状がございます。

(鈴木教育長)

できない前提で教科書が作られているわけではないと思っていいんですね。ありがとうございます。

(西淵委員)

どちらの教科書もカラフルでよくできているなと思いますけれども、たまたまですね、かなづちとか釘を打つ、技術的なことはもう少し後でもいいかもしれないんですけど、今結構子どもたち、かなづちとかのこぎりとか使えなくて、いろんなことやらせると怪我したりだとかするものですから、ちょっと見比べてみたんですけれども。3・4年生の上下の後ろのところですね、まあ学ぶところはもっと前のところにあるんですけど、かなづち

それでは、令和 2 年度使用小学校用教科用図書「図画工作」については、日本文教出版を採択することといたします。

次に、「英語」について説明をお願いします。

(袴田指導主事)

④のファイルの外国語科（英語）のページをご覧ください。

あわせて、②のファイルの外国語科（英語）のページをご覧ください。

外国語科（英語）の教科書は、東京書籍、開隆堂、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書、啓林館の 7 者から発行されています。

観点 1「学習指導要領との関連」についてです。7 者とも、外国語における見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することができるよう編集されています。

観点 2「名古屋市教育振興基本計画との関連」についてです。特筆すべきものとして、開隆堂の 5 年生 18 ページ [Lesson 3 ある職業になるための時間割を作ろう。]、6 年生 33 ページ [Project 1 世界で活躍する自分をしようかいしよう。]、同じく 60 ページ [Lesson 10 未来の夢をしようかいしよう。] において、自分の将来について考える活動を段階的に取り入れ、未来への夢を抱くことができるよう編集されています。三省堂 6 年生 4 ページ 5 ページ [もくじ] にあるように、HOP～STEP～JUMP で 1 ユニットとし、各学年 3 ユニット、2 学年で合計 6 ユニットの構成で、「見通し→習得→活用」という学習のプロセスを大切にし、伝え合う言語活動を柱として、学ぶ意欲・習慣を育むことができるよう編集されています。

観点 3 (1)「内容の選択」についてです。7 者とも道案内、食事、買物などの日常生活でのコミュニケーションに役立つ題材が選択されています。特筆すべきものとして、東京書籍 6 年生 12、13 ページ、児童が自国と比較しながら、外国の生活や文化を理解し、尊重する心を育むことができる異文化理解の題材が、各単元末に選択されています。学校図書 6 年生 42 ページ 43 ページ。43 ページの右上の Scene3 のように、コミュニケーションの目的や場面、状況などが明確に設定されており、児童が英語で話したいと思う題材が選択されています。光村図書 6 年生 48、49 ページ、世界各地の小学生が写真付きで紹介されており、児童が学んだ表現で多様な文化や価値感に触れられる題材が選択されています。

観点 3 (2)「内容の程度」についてです。7 者とも外国語活動で学習した単語や表現を歌やゲームなどで振り返ることから始まり、身近な日常生活の場面から、中学校生活、将来やりたいことなど表現の幅が段階的に広がるように工夫がされています。

観点 3 (3)「内容の構成」についてです。特筆すべきものとして、東京書籍 6 年生 3 ページ「この教科書の使い方」をご覧ください。全ての単元が、聞く、話す、読む、書くといった音声から文字へと学習活動が進むよう構成されています。三省堂 6 年生 6 ページ 7 ページ

ジ「この教科書の使い方」をご覧ください。Hop、Step、Jump と流れを設定し、音声から文字、理解から表出につながるよう構成されています。教育出版 6 年生 12 ページ「Let's Watch」にあるように、まず映像を見ながら音声を聞くことで、単元の内容を想起させ、同じく 14 ページ 15 ページで聞く活動を行い、同じく 16 ページ 17 ページで学習した表現を使って自分の思いや考えを表現し、同じく 18 ページで音声を文字につなげたり、同じく 19 ページで学習した単語や表現をまとめて使えたりできるようになっています。このように、各単元、目標とする表現の定着のため、受信から徐々に発信へとつながるよう構成されています。光村図書 6 年生 6 ページ 7 ページ「教科書の使い方」をご覧ください。Hop、Step、Jump と聞く活動から始まり、話す活動を経て、徐々に読む活動へと進むよう構成されています。啓林館 6 年生 2 ページ「教科書の構成・使い方 ②学習を進めよう」をご覧ください。全 Unit が Part1~3 の 3 つのパートに分けられており、聞く活動から書く活動につながるよう構成されています。

観点 4「使用上の便宜」においては、7 者とも、写真やイラストを効果的に用い、また、語彙や表現をまとめた紙面、ワークシートなどを盛り込んでいて、児童が興味をもって学習に取り組むことができるよう編集されています。

また、東京書籍、学校図書は A 4 版で、その他は全て A B 版となっています。

特筆すべきものとして、東京書籍別冊 Picture Dictionary は、A B 版で、もくじにあるように、語彙や表現を分野別にまとめた別冊は、2 年間活用でき、児童が意欲的に学習に取り組めるようになっています。また、東京書籍 6 年生巻末の絵カードやコミュニケーションカードにはミシン目が入っており、児童が道具を使わずに切り取って使用できるようになっています。ちなみに、7 者中、3 者、東京書籍、教育出版、啓林館が、同じように、巻末のカードにミシン目が入っています。

教育出版 5 年生巻末をご覧ください。随所でワークシートや絵カード、シールを活用することで、児童が楽しみながら積極的に自己表現に取り組めるようになっています。啓林館 6 年生 22 ページ 23 ページにあるように、Listen and Do や Chant といった活動内容が分かる見出しを看板のようなデザインにしたり、同じく 1 ページ [もくじ] にあるように、登場人物を設定したりすることで、児童が意欲的に取り組むことができるようになっています。

観点 5「印刷・造本等」においては、7 者とも 1 年間の使用に耐えうるよう堅牢に造本されています。

その他、外国語（英語）の特に調査を要する事項について報告させていただきます。

1「児童の発達段階、興味・関心に即した内容になっているか」においては、7 者とも十分な配慮がなされた編集となっています。

2「実際のコミュニケーションを行う目的、場面、状況などが明確に設定されているか」においては、7 者とも十分な配慮がなされた編集となっています。

3「ペア・ワーク、グループワークなど様々な学習形態が取り入れられているか」におい

ては、7者とも、ペア・ワークを中心として、聞くこと、話すことの言語活動が充実した編集となっています。特筆すべきものとして、東京書籍6年生44ページ「Let's Try②」にあるように、ペアで尋ね合う活動が、その後、47ページ〔食物連鎖（フードチェーン）について発表しよう〕にあるように、グループで作成した発表用の食物連鎖のポスターを見せながら互いに発表し合うといった、グループで紹介し合う活動が取り入れられています。開隆堂5年生17ページ、〔クラスの友だちの誕生日をたずねて、表に書こう。〕では、ペアで誕生日を尋ねて、次の〔クラスの誕生日ポスターを作ろう。〕では学級全体でクラスの誕生日ポスターを作るといった、ペア、学級全体と様々な学習形態が取り入れられています。教育出版6年生71ページでは、好きなスポーツ選手の紹介シートをつくり、それを活用してクイズを出し合う学習活動が扱われているように、単元の終わりには、グループや学級全体の前で発表する活動が取り入れられています。

4「中学年外国語活動からの接続及び中学校英語への接続が図られているか」においては、7者とも中学年外国語活動で学んだことを振り返る題材が設定されています。また、音声中心の学習から文字を使った学習に移行することができるようになっており、中学校英語への接続が図られています。

なお、外国語科（英語）の教科書につきましては、「市民の声」として、ご意見を79通いただいております。机上にあります青いファイルに綴じてありますので、ご参考にしてください。

以上、外国語科（英語）について、報告させていただきました。

（鈴木教育長）

説明が終わりましたので、「英語」の採択に関する審議に入ります。ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

（船津委員）

先般勉強させていただいた際に、デジタルコンテンツについても拝見させていただいて、英語は、発声とか、そこで使われているものが、子どもたちの耳ざわりとか、高さとか、スピードとか、とっても大事だなって思ったんですけども、それもこの研究会ではそれぞれの教科書のデジタルコンテンツは見ていただいたでいいですか。そこに大きな差はあったでしょうか。とお聞きしたいです。

（袴田指導主事）

調査専門委員会の方からは、デジタルコンテンツの中身についての調査については特に報告がされておられません。教科書の中にQRコードがあるとかCDのマークがあるということについては報告があります。

(船津委員)

これは、英語が始まって、教科になって5・6年でこの教科書使われるときには、先生方は現場ではそういうデジタルコンテンツは定期的にご利用になるという前提なのか、先ほどのQRコードのときのように、まだそれは準備段階ですねという状態なのか、またはそれ以外のものを、これまでも英語を中学校で扱っている中で、何か工夫とかでお使いになっている別のものをご予定されていたりするのかわせていただけていますでしょうか。

(袴田指導主事)

指導用の音声、映像教材については、指導書の中に入れており、それについては学校に整備をしていく予定であります。

(船津委員)

それは教科書とは別ということですか。

(袴田指導主事)

教科書の中にある、例えばLet's listen だとかLet's watch のものが、指導書の中に入っているのを見せたり聞かせたりすることができるようにはなっています。

(鈴木教育長)

デジタルコンテンツでなくても、語学の学習なので、発音等については個々で補完されるようには各社ともなっているということによろしいですか。

(袴田指導主事)

はい。

(船津委員)

それを、お使いになられるんですよねっていうことの確認です。

(袴田指導主事)

現在の外国語活動でもデジタル教材を使って授業をやっておりますので、同じように使って授業をしていくことを想定しています。

(船津委員)

それは大事なんじゃないかなっていうことです。

(鈴木教育長)

そうですね。その差についての特にリポートはないということですが、利用する前提だと。

(西淵委員)

関連してるんですが、先生方ややっぱり英語が得意じゃないというか、入ってきたときからまだそう慣れない先生方もみえる中で、先生方が多く支持されているところのものが、今回使いやすいのかなということは思います。船津委員がおっしゃったように、それを補うような、例えば、音声テープのものが簡単にできるとか、そういうものについては指導書とかに入っているものを、指導書を買わないといけないですけど、買って利用されるんだろうというふうに思いまして、その指導書の音声的なものも一部聞かさせていただいて、なかにはですね、それも基本としてはあったんですけども、スピードがですね、それぞれ当然変えられるとか、それから子どもたちが発音している時に対応できるというようなものになっておりまして、それぞれ工夫されておりましたし、東京書籍のものについても、けっこう工夫がされていたように思えます。そういう音声的なもの。やっぱり、発音ってなかなかすぐには小学校の先生方、まあ我々も不得意なんですけれども、できるものではないものですから、そうやって補えるものがないのではないかなということを思いまして、文科省が今「WE CAN」っていう形で、出してくれているのですが、活用しながらということで、流れを受けてみると、結構どの者も工夫はされていたというふうに思いました。ただ、例えば、一番簡単なアルファベット表なんかを見比べたときに、三省堂のアルファベット表って簡単なんですけど、他の所で三省堂は補っていくわけですけども、東京書籍では最後の所にアルファベットチャートというのを付けており、こういうところも色分けしてあるのは発音が似たもの分けるような形で、もうちょっと面白いのは、教育出版なんかは、色でですね、A、B、C、Dで、なんで緑と緑が合うかなって見てみると、似た発音、適当に色がバラバラなのかと思ったんですが、よく見てみると、似たものが色で同じようになっていたりという工夫がされている。子どもたちにも、一番最初に、やはり、英語をネイティブにさせるということを考えると、工夫は様々あるんですけども、東京書籍のようなものは結構、工夫がされていたのではないかと、私は思いました。

(鈴木教育長)

他いかがでしょうか。

(小栗委員)

東京書籍についてお伺いしたくてですね、付録がついていると思います。その付録の活用は非常にいいと思うのですが、実際に英語の時間内にきちんと使っていくと他と比べると量が多くなってしまいうな、という疑問と、それから、児童が意欲的に学習に取り組めるようになっていくということ、授業ではあまり使わずに自分の復習とか予習のため

に主にこれを使っていくのか、その点はこの付録の使い方っていうのは、どういう感じでしょうか。

(袴田指導主事)

今、東京書籍の Picture Dictionary についてご質問がありましたが、Picture Card につきましては、例えば教科書のページのところで、ここで Picture Dictionary を使おうというマークがあります。一番最初の目次のところだと、そこにこのマークを使うというのがあるのですが、そのように活動の中でその必要な語彙を使う時にこの Picture Dictionary を使うということです。

(梶田委員)

具体的に教えてもらえると。

(袴田指導主事)

6年生の10ページ。ステップ1のところで読んだ後、私のセリフを膨らまそうということで、どんなことを自分で言いたいかなという時に、Picture Dictionary を見て、何が好きとかっていうところで、例えば、Picture Dictionary の10ページ、11ページを開いて、自分の好きなものは nut っていう感じで、そんな活動ができるように説明がされております。

(鈴木教育長)

8ページとか16ページは具体的に何ページがこうって書いてあるのですか。

(袴田指導主事)

8ページや16ページの使い方としては、ここを見て、例えば、教科書の8ページだと Picture Dictionary の12ページ、13ページの動物のところをみて、動物を英語でなんというかということを確認する「Word Link」が確認ができる活動としての設定がされております。

(小栗委員)

先ほど質問に戻るのですが、見てね、ということは、授業で先生が実際に使っていくのか、見ておいてくださいね、と。それはなぜかと言いますと、同じ限られた授業の中で、比較的、今回市民の声の中ではちょっと量が多いのではないかという意見が結構多かったと思います。そうすると、東京書籍だけ逆にこれを余分に授業の中で使っていこうとするとその分授業の時間の配分とかそのところをどういうふうに考えられるのかなと思ったのですが。

テキストが見てねと書いてあるので、授業外で見てね、なのか、見ましようなのか、ついているということは、使っていくのかどうか、そうすると教科書を比較する時に、細かいことを言うと、48 ページが他のテキストより増えてしまわないのかなとかですね、そこらへんの考え方をどうしておけばよろしいですか。

(袴田指導主事)

英語で自分のことを言おうと思うと、やっぱり問題になってくるのが、自分の言いたいことが英語でなんというかということが問題になってきます。なので、英語の教科書、東京書籍は別冊という形で Picture Dictionary がついておりますが、他の教科書におきましても、例えば、巻末のところに、三省堂だと 6 年生 108 ページのところから、例えば、Words & Phrases のようにそれぞれの言葉をやっぱり自分が使いたい表現を言うために、108 ページからずっとこれですと、127 ページまで。教育出版ですと 112 ページからマイワードバンクというような形でその使いたい言葉を探してみようという形で 112 ページからずっと 117 ページまで、やはり同じような形で自己表現に使える語彙の紹介をしておりますので、他の会社の教科書と、特筆すべき点として挙げさせていただいているのが別冊になっているところと一つの違いになっているところです。他の会社も同じように Picture Dictionary のようなものを巻末につけて、子どもたちが自己表現をできるようにたくさんの語彙をここで紹介しております。

(船津委員)

私も拝見して、英語今回、この別冊になっている Dictionary が良いのか、巻末について、しかもカードになっていて、切り取るみたいになっているものもあったので、どうなのがいいのかなと思ったのですが、カード面白がってできるかもしれないですが、それをずっと持ってられるのかなとか、どっかいつちやわないかなとか気になったりとか。後ろに同じような Dictionary についているものは、めくってめくってはとても大変かなと思ったときに、中学校にいつて辞書を使うとか、物を調べるときに違うものを使うっていうことを始めるのであれば別冊になっていて Dictionary って名前になっているのは面白くなってしまう。その方が失くさないかなって思いました。

使うとは思わないけど、中学高校でも英語を学んで、調べたくなったら使ってみようとか、これに戻るとは思わないけれど、中学へ上がる事を考えている感じがしました。

(小嶋委員)

子どもに英語を学ばせようと思ったら、こういうワードブックみたいなものは必ず買うと思うんですね、絵がたくさん入った。興味が始めは違うと思うので、自分で見ながら自然と覚えていくのだと思うのですが、そういう意識がある若手ばかりではなく、こういう形で、教科書として、これがあるというのはとても良いと思います。

(梶田委員)

単体でも使えますもんね。

(小嶋委員)

そうですね。意識が無い子が、こんなのもあるんだって、見て触れる機会があるっていう点で素晴らしいなって。他は全部教科書に紛れ込んでいるということで、こういうふうにもとまっていけないので、高いレベルを求めたときには、もとまっている方が意識のどこかには残るのではないかと、また、調べたい子はもとまっていた方が見やすいですから、やはり、教科書の別冊というのは、非常にいいなと思いました。

(船津委員)

前回もこういう発言をして、それはできないとか言われたのですが、そろえた時にはみ出ないといいな、といいことかなと思いました。

(小栗委員)

逆に出ている方が取りやすいかもしれないですけどね。

(船津委員)

入れたりしまったりするときに、出ているところがどんどん悪くなっていきそうなので、納まった方がいいかなと思いました。

(鈴木教育長)

ご意見をしておりますと、初めてことなので、現場の教員が使いやすいと判断したものが良いというお話がありました。また今の、別冊についていろいろありましたが、総合すると別冊に対する評価の高さがあるのかなというふうに受け取りました。

そこで、「英語」につきましては、現場の教員の評価を再度見たいと思いますが、各学校の研究結果の報告書をみていきますと、東京書籍がすべての項目で他者を上回る点数をつけられています。また専門委員会の報告書につきましても、東京書籍が特筆すべきもの6つの分野が挙げられているとおりに、他者よりも多くの評価を受けているように拝見いたします。そういったことから考えまして、英語につきましては東京書籍のものを採択してはいかがでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(鈴木教育長)

ありがとうございます。それでは、令和2年度使用小学校用教科用図書「英語」につきましては、東京書籍を採択することにいたします。

これにて、日程第1「令和2年度使用教科用図書の採択審議について」を終了いたします。

残りの種目につきましては、7月25日に予定しております臨時会にて採択を行いたいと思います。

傍聴の方も含め、ここにおられるみなさまに再度お願いいたします。令和2年度使用教科用図書の採択に関しましては、県の指導を受け、採択結果は8月31日まで非公開としております。また、採択などに関わる会議録、資料等につきましても、同様の取り扱いとなりますので、その旨ご理解の上、本日知り得た内容につきましては、ご配慮いただきますよう、お願いいたします。

これで、本日予定の案件は全て終了いたしました。

教育委員会臨時会を終了いたします。

午後5時10分終了